

神楽坂地区における歩きたくなる空間の魅力に関する研究

東京大学大学院 学生会員 ○海野 碧
東京大学大学院 正会員 高見 淳史
東京大学大学院 正会員 大森 宣暁
東京大学大学院 正会員 原田 昇

1. はじめに

近年自治体では「楽しく歩ける街」を掲げて歩行空間の再編を行っている所があるが、楽しく歩ける街、歩きたくなる街とはどのような街か。本研究では、東京都新宿区神楽坂地区を舞台に歩行調査を行い、歩行空間の景観要素や人が通りに対して持つ印象、街に対する選好から、歩きたくなる空間とはどのようなものかを明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法

本研究で行った調査の内容は次のとおりである。被験者にはあらかじめ指定したルート歩き、歩行後に指定した通りについて、8対の形容語(表1参照)でその印象を尋ねるとともに、また歩きたいとどの程度思うか(以下「歩きたい度」)を質問した。歩行調査の経路と印象を尋ねた際に指定した通りを図1に示す。

調査は非都市工学系の大学生・大学院生(男女10名ずつ、計20名)を対象に2012年1月に実施し、天候は概ね晴れであった。



図1 歩行経路と印象を聞いた通り

3. 通りの印象と歩きたい度

図1の各通りについての印象評価(5段階)の結果を、左側の形容語を-2点~右側の形容語を+2点とした平均

点の形で表1に示す。次に、表1の結果をもとに主成分分析を行った。主成分1、2で累積寄与率が80%を超えるため、この二つの軸について分析した。

表2より、主成分1は「封鎖的、伝統的、統一感ある、落ち着いた」の軸であり、通りの「路地性」を表すと解釈した。主成分2は「派手、明るい、おしゃれ」の軸であり、通りの「来街者への開放性」を表すと解釈した。また、主成分1と2に共通して、綺麗という評価が正の値を取っていることも分かる。

各主成分の主成分得点を平面上にプロットしたものを図2に示す。主成分1「路地性」はE兵庫横丁で正に強く反応し、A神楽坂通りで負に強く反応している。主成分2「来街者への開放性」は、A神楽坂通り、E兵庫横丁、I六丁目商店街で正に強く反応し、G住宅街で負に強く反応している。

併せて図中には、各通りの歩きたい度(歩きたくない:-2点~歩きたい:+2点の5段階)の平均点を表示している。主成分分析の結果と実際に被験者から得ら

表1 通りごとの形容語と評価得点

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
派手⇔地味	-0.10	0.60	0.25	0.35	0.35	0.45	1.10	0.60	0.30
暗い⇔明るい	0.80	0.00	-0.05	-0.25	0.00	0.00	-0.45	0.00	0.60
封鎖的⇔開放的	0.50	-0.15	0.00	-0.40	-0.75	0.00	-0.05	0.05	0.40
おしゃれ⇔生活感ある	-0.15	0.40	0.35	0.40	-0.80	0.75	1.45	0.45	0.50
汚い⇔綺麗	0.20	0.45	0.05	-0.15	0.95	0.10	-0.20	0.40	0.25
現代的⇔伝統的	-0.30	0.05	0.10	0.20	1.20	-0.45	0.05	-0.15	-0.15
バラバラ⇔統一感ある	-0.55	-0.05	-0.10	0.10	1.35	-0.40	0.05	0.05	0.05
賑やか⇔落ち着いた	-0.45	0.80	0.00	0.40	1.50	0.30	0.45	0.70	-0.40

表2 主成分負荷量

変数	主成分1	主成分2
派手 ⇔ 地味	0.1813	-0.9015
暗い ⇔ 明るい	-0.4202	0.8668
封鎖的 ⇔ 開放的	-0.9086	0.2581
おしゃれ ⇔ 生活感ある	-0.5455	-0.8165
汚い ⇔ 綺麗	0.6893	0.5529
現代的 ⇔ 伝統的	0.9372	0.1120
バラバラ ⇔ 統一感ある	0.9422	0.0691
賑やか ⇔ 落ち着いた	0.9127	-0.2568

キーワード: 楽しく歩ける街, 歩きたくなる空間, 印象評価

連絡先: 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 TEL03-5841-6234

れた歩きたい度を比較すると、歩行者は「路地性が高く、来街者向けの場所」を最も歩きたいと考えており、これに最も合致したのが E 兵庫横丁であった。また、「路地性は低くとも来街者向けの場所」を歩きたいと考えており、これに当てはまるのが A 神楽坂通りと I 六丁目商店街であった。逆に、G 住宅街は基本的には歩きたくないと評価された。

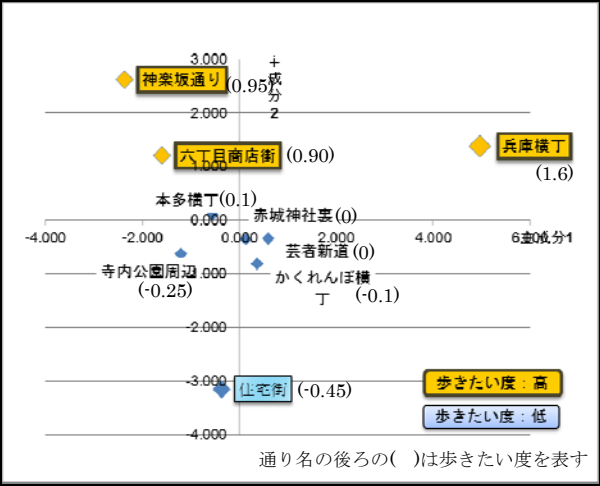


図2 主成分散布図と歩きたい度

4. 街に対する好みと歩きたい度

調査では個人属性に関する質問として、街に対する一般的な好みを 5 対の形容語（具体的には、賑やか⇔落ち着いた、おしゃれ⇔生活感のある、新しい⇔古い、猥雑⇔整然、大きい⇔小さい）で尋ねた。これをもとにクラスター分析を行った結果、被験者を 3 つのクラスターに分けることができたが、クラスター2に属する被験者は 2 人と少なかったため、クラスター1（被験者 8 人）と 3（10 人）についてのみ以下の分析を行った。なお、クラスター1は落ち着きがあり、古く、おしゃれな街を好む集団、クラスター3は落ち着きがあり、古く、小さい街を好む集団となった。各クラスターについて、通りの印象と歩きたい度の関係を順序ロジスティック回帰分析により分析した。結果を表3に示す。

クラスター1の被験者は、神楽坂では明るくておしゃれで伝統的な通りをより歩きたいと評価しており、「おしゃれ」と「伝統的」という点がこのクラスターの街の好みと関係している。クラスター3については、モデルの尤度比は低いものの、被験者は神楽坂では伝統的で開放的な通りをより歩きたいと評価する傾向があり、「伝統的」という点が街の好みに関係している。

このように、クラスターで類型化した街の好みと実

際の通りを歩いた印象、歩きたい度はある程度整合していることが明らかになった。

表4 クラスター別の「歩きたい度」モデル推定結果

<クラスター1>

変数	係数	有意確率
派手 ⇔ 地味	0.642	.132
暗い ⇔ 明るい	2.519	.000
封鎖的 ⇔ 開放的	0.037	.916
汚い ⇔ 綺麗	-0.138	.748
おしゃれ ⇔ 生活感ある	-1.006	.003
現代的 ⇔ 伝統的	1.438	.000
バラバラ ⇔ 統一感ある	-0.105	.726
賑やか ⇔ 落ち着いた	0.508	.107
閾値：歩きたい度 -2~-1	-3.583	.000
閾値：歩きたい度 -1~0	-0.893	.011
閾値：歩きたい度 0~1	1.293	.000
閾値：歩きたい度 1~2	3.342	.000
サンプル数	72	
尤度比 ρ^2	0.28	

<クラスター3>

変数	係数	有意確率
派手 ⇔ 地味	0.318	.356
暗い ⇔ 明るい	0.719	.072
封鎖的 ⇔ 開放的	0.865	.016
汚い ⇔ 綺麗	0.481	.159
おしゃれ ⇔ 生活感ある	-0.151	.487
現代的 ⇔ 伝統的	0.810	.005
バラバラ ⇔ 統一感ある	0.218	.399
賑やか ⇔ 落ち着いた	0.098	.702
閾値：歩きたい度 -2~-1	-3.314	.000
閾値：歩きたい度 -1~0	-1.129	.000
閾値：歩きたい度 0~1	0.373	.203
閾値：歩きたい度 1~2	1.842	.000
サンプル数	90	
尤度比 ρ^2	0.12	

5. まとめ

神楽坂においては「路地性が高く、来街者に開かれた場所」を歩きたいと評価され、路地性は高くはないが来街者に開かれた通りも歩きたいと評価された。逆に G 住宅街のような特徴に乏しい場所は歩きたくないと評価された。また、個人の街に対する好みと実際の通りの印象が歩きたい度に関係することを示した。

今後の課題としては今回の研究では対象地として神楽坂という特殊な場所を一か所のみ選んだため、他の場所に応用すること、性質の異なる場所と比較し共通軸を見つけ出すこと、街のアイデンティティを発見することが挙げられる。

参考文献

1) 日本建築学会編：よりよい環境創造のための環境心理調査手法入門，技報堂出版，2000
2) 社団法人 新都市ハウジング協会 都市居住環境研究会：歩きたくなるまちづくり 街の魅力の再発見，鹿島出版会，2006